

令和元年6月14日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05385

研究課題名（和文）サハラ南縁地域をめぐるモラル・エコノミー論的土地制度研究を通じた所有概念の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of property concept through the land system research in Sahel

研究代表者

佐久間 寛 (Yutaka, Sakuma)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教

研究者番号：80726901

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,400,000円

研究成果の概要（和文）：ニジェールをはじめとしたサハラ南縁地域における土地制度や日常的な相互行為をめぐる現地調査および文献調査を行い、その成果を査読付き学術論文7本（うち英語論文2本）、編著書5冊（うちフランス語の編著書1冊、英語の共編著書1冊）、口頭発表20回（うち英語による発表4回、フランス語による発表2回）等のかたちで公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

サハラ南縁地域における土地をはじめとした所有の研究を通じて、土地が不可侵の所有物というより他者に負う贈与物であるという事態を解明し、西欧近代的な所有観の限界を明らかにした。またこの研究から「負債」という新たな研究テーマを析出し、国内外の研究者との共同研究を展開する基盤を整備した。

研究成果の概要（英文）：We conducted field surveys and literature surveys on land systems and daily interactions in the southern Saharan area including Niger, and the results were collected in 7 peer-reviewed academic papers, 5 editorial books and 20 oral presentations.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学 民族学 アフリカ地域研究 土地制度 所有

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、ニジェール西部ソンガイ系社会をめぐるこれまでの研究を通じて、当該社会では、土地が不可侵の所有物ではなく他者に負わずには得られない贈与物として現象していることを明らかにした。そこには一地域社会に固有の問題ではなく、西欧近代的な所有観からは捉え損ねられてきた根源的な問題が控えており、その探求は経済的なものと社会的なものを複合的に考察するモラル・エコノミー論的視座によって可能になるのではないかと、こうした着想のもと本研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

(1)西アフリカ・サハラ砂漠南縁地域の土地制度を支える諸規範と、農村近代化政策等にあらわれる公権力の統治倫理との結合様式を実証的に解明したうえで、(2)そこから得られた規範=倫理(モラル)についての知見を手がかりに、近代市場社会を支えてきた西欧的所有観に代わる、新たな「人と土地」の関係を理論的に構想すること。

3. 研究の方法

ニジェール共和国西部における人類学的なフィールドワークとモラル・エコノミー論に関する文献研究。ただしフィールドワークについては、農村地域の治安状況が当初の見込み以上に悪化したため、ニジェールの首都ニアメに調査地を変更した。

4. 研究成果

ニジェールの土地制度を他の社会と比較研究する作業を通じて、経済人類学者ハンとハートが述べたように、「農地は資産というよりはむしろ負債」であることが明らかになった。これは他者を排することによって私的財産権を確立してきた西欧近代的な所有観に抜本的な見直しを迫る知見である。また本研究からは、土地を包摂するより大きな自然と人の関係を問い直す狙いから、ニジェール河におけるカバ狩りについての研究を進めた。これにより、カバが体現する川という自然への「畏れ」という情動によって動物-人間関係の複数化・間接化が促される機制が明らかとなり、動物・人間を自律的な動作主に措定する近年のエージェント論の問題性が指摘された。くわえて、こうした経済人類学的情動研究とアート研究の接続可能性を検証し、その成果を国際シンポジウムの開催と成果報告書を通じて公開した。さらに、モラル・エコノミー論の源流のひとつである経済人類学者カール・ポランニーの経済思想についての理論的研究を進め、未公開テキストを含めた新たな論集の翻訳を商業出版した。

これらの研究からは最終的に、「人が他者に負う」とはいかなる事態かを比較民族誌的視点から問い直す必要があるとの展望が得られた。この展望に基づき最終 2018 年度には「負債」をめぐるシンポジウムや学術誌の特集の組織を進めたほか、翌 2019 年度から負債に関する共同研究を開始する準備を整えた(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題および科研基盤 B への採択が決定済み)。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7 件)

1. 佐久間寛「被えぬ負債に憑かれること：ニジェール西部における調査経験から」、『白山人類学』22号, pp.59-77, 査読有, 2019年.
2. 佐久間寛「自由と負債:カール・ポランニー2.0の経済人類学」、『哲学』, 140巻, pp.113-145, 2018年, 査読有, 2018年.
3. Yutaka Sakuma, « Surrogate of Fear: An Ethnographic Study of Hippopotamus Hunting in the River Niger », *Journal of African Studies*, No. 91, pp.17-28, 2017.
4. Yutaka Sakuma, « Who Owns This Land?: A Polyphonic Approach to the Agrarian Regime in Songhai Society (Western Niger) », *Japanese Review of Cultural Anthropology*, Vol. 17 No.2, pp.5-23, 2017.

(他3件)

[学会発表](計 20 件)

1. Yutaka Sakuma, « The Potential of Debts that Cannot Be Paid », 8th African Forum in

Accra: Futurity in African Realities, Erata Hotel, 2018. 12. 7.

2. 佐久間寛 「被えぬ負債に憑かれること：ニジェールにおける経験から」, AA 研基幹研究人類学「アジア・アフリカにおけるハザードに対する『在来知』の可能性の探究：人類学におけるミクロ - マクロ系の連関 2」主催シンポジウム「負債をめぐるポリティクス——東南アジア, オセアニア, アフリカの事例から」, 於 AA 研, 2018 年 4 月 28 日.
3. Yutaka Sakuma, « Bataille dans le fleuve, bataille en dehors du fleuve: Une étude ethnographique de la chasse à l'hippopotame sur le Niger », Conférence d'ethnologie, l'Association d'ethnologie de Strasbourg, Université de Strasbourg, 2018.2.14.
4. Yutaka Sakuma, « Present of Sudanese agricultural complex: The case of western Niger », International Workshop: Agricultural Practice and Social Dynamics in Niger, Core Project (Anthropology) of ILCAA: The Potential Value of Indigenous Knowledge in Managing Hazards in Asia and Africa: The Anthropological Explorations into the Linkage of Micro-Macro Perspectives 2, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2017.3.12.
5. Yutaka Sakuma, « Qui est le propriétaire de cette terre ? Possession et, « affect » des terres dans le système agraire Songhai (Ouest Niger) », Mondialisation et Mutations socio-culturelles en Afrique, Laboratoire Dynamiques Européennes, Université de Strasbourg, 2017.1.11.
6. Yutaka Sakuma, « Moral Economy and Land Tenure in Sahel (Western Niger) », 7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives, Africa Moral Economy Project, Kyoto University, 2016.11.10.
7. 佐久間寛 「経済的なものをめぐるモラルと自由：カール・ポランニー2.0 から」, 2016 年度第 2 回アフリカ・モラル・エコノミー研究会, アフリカ・モラル・エコノミー研究会, 於キャンパスプラザ京都, 2016 年 7 月 10 日.
8. 佐久間寛 「ポランニー思想のマトリクス：『経済と自由』を中心に」, 日本文化人類学会 50 回研究大会, 於南山大学, 2016 年 5 月 28 日
9. 佐久間寛 「明かされる場, 隠される者, 映される事：西アフリカ農村の命名式をめぐる映像=人類学」, AA フォーラム, 於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2015 年 12 月 10 日.
10. 佐久間寛 「何が自然で誰が人か：ニジェール西部におけるカバと漁業民の関係から」, アフリカ学会第 52 回学術大会公開講演会「アフリカの自然と人の共生をめざして」, 於犬山国際観光センター“フロイデ”, 2015 年 5 月 24 日.

(他 10 件)

[図書](計 5 件)

1. (共編著) Yutaka Sakuma and Yukako Yoshida eds., *Disability and Affect: Proceedings of Two International Symposiums about Art*, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2019.
2. (編著) Yutaka Sakuma éd., *Art et affect en Afrique*, Tokyo : Institut de recherches sur les langues et les cultures d'Asie et d'Afrique, Université des langues étrangères de Tokyo(ILCAA), 2018, pp.1-69.
3. (共訳) カール・ポランニー 『経済と自由：文明の転換』(福田邦夫, 池田昭光, 東風谷太

一、佐久間寛訳), 筑摩書房, 2015年, pp.1-560.

(他2件)

〔産業財産権〕

該当なし

〔その他〕

ホームページ等：該当なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

該当なし

(2)研究協力者

該当なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。